機密
受第二六五一號
13. 6. 9.

誌歐参一第一課

㊙

電　報

大正十三年六月六日
六月六日午後六時一五分着

繰込濟

参謀次長宛　薩哈嗹軍参謀長

薩参謀第三一号

海軍ヨリノ通報ニ依レハ四日露國砕氷艦「ナジドジヌイ」[illegible]碇泊有リ新造ノ航路浮標ハ附属品ヲモ搭載シアリ又測量船「インジエネル」（昨秋我浮標ヲ引揚ケタル船ニシテ武装ナシ）ノ二隻ハ露國政府ノ命ニ依リ五月二十五日地名不明（ラシ？）帯来港ニ間宮海峡南入口附近ニアリテ解氷ヲ待チツヽアリト　之ニ対シ駆逐隊ヲ派シ當方ノ回答スル迄作業ニ着手セシメサル如ク通報セル由、

註、「ナジドジヌイ」ハ噸数一、五二五馬力二〇〇〇ノ砕氷船ナリ

大正十三年六月十三日

臨時海軍防備隊司令

海軍省軍務局長宛

電報譯

臨防機密第十九番電報

膠州ヨリノ電報ニ依レハ露船「インチネール」乘組員本日午前十時膠州ニ來訪「ダブイトフ」ノ使トシテ口頭ニテ浦鹽海軍部ニ日本ノ意圖ヲ傳ヘタルニ浦鹽ノミニテハ即答出來ス（モスコー）ニ問合中ナルニ付回訓アル迄日本ノ樺太水道設標ヲ待タンコトヲ望ム旨申出テタリト依テ膠州ヘハ豫定ノ通設標ニ着手スヘキヲ命シ尚露國側ヘハ北樺太占領中ナルヲ以テ交通上樺太航路ハ日本ノ手ニアリ設標セサルヘカラス本年ハ解氷遲レ居ルタメ設標ヲ急ク要アルハ貴方ニ於テモ間宮海峽ノ設標ヲ急キ居ルト同様ナリ何レ日露交渉結了セハ圓滿ニ解決スヘキヲ以テ今ノ處ハ現狀ヲ諒察センコトヲ望ム旨ヲ敷衍シテ圓滿ニ先方ニ我意圖ヲ通シ置ク様命シ置ケリ

終

海軍

邦文タイプライター用紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

海軍

大正十三年六月十二日

臨時海軍防備隊司令宛

海軍省軍務局長

電報

軍務機密第二三番電報

臨防機密第一七番電受領

露國ハ帝國ノ保障占領ヲ承認シ居ラサル關係上樺太水道設標ヲ公然認メシムルコトハ困難ナルヘク當方トシテハ作業上支障ナク事端發生ノ虞ナキニ於テハ更ニ追及ノ必要ナキ意嚮ニ付爲念

邦文タイプライター用紙

海軍

大正十三年六月十日

海軍省軍務局長宛

臨時海軍防備隊司令

電報譯

臨防機密第一七番電報

軍務機密第二一番電報了承

第六驅逐隊司令ニ暫ク設標ヲ待ツ樣交渉セシメタル時御來旨ノ趣ヲ懇談セシメタルニ又軍務機密第二〇番電報ニ依リ膠州艦長ヲシテ交渉セシメタルトキモ當隊通譯官ヲ附シ懇々説述セシメタル處ナルモ彼ハ設標ヲ命セラレタルノミニシテ交渉ノ權能ナク又露國政府ヘ請訓スル權利モナシ若請訓スルモ一週間以上ヲ要スルトノ一點張リニテ今迄三回トモ同樣ノ返答ヲ繰返スノミ全々交渉ノ糸口サヘ見出シ得サリシ次第ニシテ第六驅逐隊司令膠州艦長ト交渉ニ當リタルモノハ到底言ノ上ニ我樺太水道設標ヲ認メシムルコト能ハスト思ハル尚

邦文タイプライター用紙

3-2214

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

海軍

御來旨ニ依リ一應交渉ヲ捨テス又爲シ得レハ會食ノ機會ヲ作ル等意趣ノ疏通ニ努メシムヘシ然シナカラ今迄彼我ニ接シ態度至極丁寧ニシテ樺太水道ハ氷ノ關係上作業ニ着手遲ルルコトアリト云ヘル等ヨリ察スルニ實際ハ我ノ樺太水道設標豫定ノコトヲ承知シ居リ之ヲ妨ケサルト認メラル間宮海峽、南水道ノ全面ハ解氷シ昨九日露國側ハ間宮海峽南口ノ一番ヨリ設標ヲ始メタリ樺太航路ハ解氷セハ充分ノ注意ヲ拂ヒ設標ニ着手セントス

六月十日

邦文タイプライター用紙

海軍

大正十三年六月十一日着電

臨時海軍防備隊司令

海軍省軍務局長宛

電報譯

臨防機密第十八番電報

本日午後膠州艦長露國軍艦ト交渉シタル結果浦鹽海軍部ニ請訓スヘキ旨勸告數回押問答ノ末「インチネール」ヲ今夕泥港ニ派シ浦鹽官憲ニ請求シ明十一日夕刻迄ニ回答スルコトニ折合ヒタリ

六月十日

邦文タイプライター用紙

3-2214

0223

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

海軍

大正十三年六月九日

海軍省軍務局長

臨時海軍防備隊司令宛

電報

軍務機密第二十一番電報

臨防機密第十三番電受領

樺太水道設標ニ關シテハ目下北樺太ハ帝國ノ保障占領中ニ屬スルヲ以テ露國側ノ設標ハ之ヲ承認スルコト能ハス強テ露國側ニ於テ設標セムトスルニ於テハ容易ナラサル事端ヲ惹起スルニ至ルヘク目下北京ニ於テ進行中ナル日露交渉ニモ影響スヘク日露親善ノ爲甚タ好マシカラサル次第ニ付テハ右ノ主旨ヲ「ダブイドフ」ニ説明シテ其ノ反省ヲ求メ要スレハ「ダブイドフ」ヨリ露國官憲ニ請訓セシメ尚地方的ニ彼我ノ融和ニ努メ感情ニ走ルコトナク圓滿ニ解決スル様取計ハレタシ依命

邦文タイプライター用紙

海軍

大正十三年六月八日

海軍省軍務局長宛

臨時海軍防備隊司令

電報譯

臨防機密第十三番電報

軍務機密第二〇番電報了承

本日膠州特務艦長ヲシテ設標ニ關シ露國設標委員「ダブイトフ」ト圓滿協定セシメントシタル彼ハ交渉ノ權利ナク全水道ニ設標スルノ任務ヲ受ケ居ルノミ從テ日本海軍ヨリ浦鹽政府ニ交渉セラレ其ノ結果取止メノ命無キ限リ樺太水道ニモ浮標ノ義務アリト稱シ何等交渉ニ應セサルニ依リ當方ニ於テ解氷後直ニ樺太水道ノ設標ニ着手スルコトトシ其ノ旨彼レニ通告セシメ又彼レハ浮標受領ニ關シ全權委任狀ハ設標終了後更ニ協議ノ時ニ提出スト云ヒ居レリ斯クノ如ク彼レハ設標ニ關シテハ何等交渉ノ權能ナシト云ヒ浮標受領ニ關シテハ全

邦文タイプライター用紙

3-2214

0224

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

海軍

權ヲ有スト稱シ甚タ誠意ヲ缺ク此ノ有樣ニテハ將來面倒絶ヘサルヲ
以テ適當ナル時機ニ中央ト浦鹽官憲ニテ設標區域決セラレタシ設標
變更ハ其ノ後ニスルヲ適當ナリト考ヘラル如何

邦文タイプライター用紙

3-2214

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

9694
（暗）

北京発　大正十三年六月十六日後六、〇五
本省着　後二、一〇

大正十三年七月五日　記録係接受

幣原外務大臣　　芳沢公使

査閲

第四九〇号

往電第四五六号末段ニ関シ十三日島田ヨリ「カラハン」ニ質シタル処「カ」ハ今回黒龍江江口ニ於ケル日本軍艦ノ行動（往電第四九二号参照）ニ鑑ミ譲歩案ハ自分ノ希望ニ応セサル事トナリタル旨ヲ語リ島田ヨリ種々説得ニ努メタル処アリタルモ「カ」ハ目下ノ日露国交状態ニテハ直ニ日本側ノ希望ニ応スル能ハスト述ヘ要領ヲ得ス本件ニ付テハ引続キ交渉スヘキモ不取敢右電報ス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

東方通信

六月十一日第十一號　十一日北京發東方通信

◎カラハン氏から芳澤公使に抗議

カラハン氏は本朝芳澤公使を訪問し黒龍江河口に於て露國汽船が浮標を設置せんとした際日本の水雷艇が阻止したとの抗議を爲した。

3-2214

0227

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

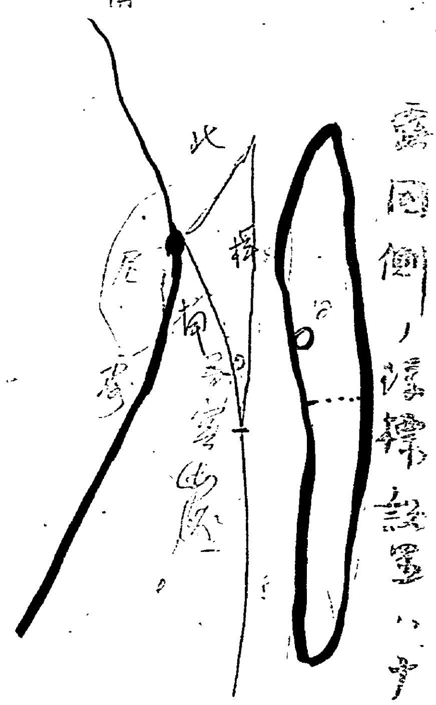
大正十三年七月五日 記錄係接受

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第八九五
（暗）

臺灣軍甲號　明治三十七年六月十三日　發三、五〇
御前　着　着六、一五
参謀外務大臣　鈴木迎撃殿

第一一号



鎮海軍ハ十二日間宮海峡樺太航路ニ於ケル浮標設置ヲ終ル及露國側ノ浮標設置ハ十四日頃完了ノ由

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支

電信課長

電信案

暗號 / 平文　發電大正　年　月　日　午前 / 午後　時　分　送電番號

主管　歐米局長

主任　歐米局第一課

起草大正十三年六月十六日

受信人名　在支　芳澤公使

發信人名　幣原大臣

件名　間宮海峽航路標識ニ關スル露國側申出ニ對スル回答

綴込名　航路標識

大正十三年七月五日　記録係接受

奉天經由　長春經由

(丙號用紙)

第　　號

貴電第四九二號ニ關シ（樺太附近航路標識ニ就キ）客年往電第六九八號

所[illegible]ノ事情ニ依テ彼方ニ於テ設置シ居ル

北方進出ノ所客年拾月露國側ヨリ

海峽航路標識中露國ノ所有ニ屬スル（露國所有ニ屬シ居ルモノ）還附

方申出アリタルニ付我方ハ露國側ニ於テ確實ニ標識ヲ

設置スルニ於テハ之ヲ還附シ差支ナキ旨客年十二月

在浦潮帝國總領事代理ヲ通シ露國側ニ申入

置キタルニ拘ラス其後露國側ヨリ何等回答ナカリシヲ

以テ從來通帝國海軍ニ於テ航路標識ヲ設置

スル方針ニテ準備シ來リタル次第ナル處[illegible]

隊ハ間宮海峽方面ノ解氷状況視察中[illegible]

外務省

(乙號用紙)

3-2214
0230
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

劉露國砕氷船「ナヂョージヌイ」及測量船「インジユネール」ノ夏ヲ[illegible]間海峡砕氷船「ナヂョージヌイ」ニ搭乗セル極東水路部長「コリガイドフ」ヨリ
中央政府ノ命ヲ兼ネ全水道ニ航路標識設置
烏浦潮ヲ出航スル[illegible]ニ付浮標交附ヲ設標
ニ关シ帝國政府ニ通告方ナ出[illegible]大阪在[illegible]
書 在西伯利防備隊司令ヨリ海軍省ヘ電報

アリタルヲ以テ海軍側ハ右[illegible]指揮[illegible]
「カリウイドフ」ノ資格ヲ確メ[illegible]同人ニ尼港寄水
路ニ要スル浮標ヲ交附シ間宮海峡樺太水道ノ分
岐点以南水路ニ對シテハ露國ヲシテ設置セシムル
コトトシ差支ナキ[illegible]此樺太ガ我軍占領中[illegible]
通關係上航路ハ我方ニテ設標[illegible]
遂ニ居ルタメ設標ヲ急ク必要[illegible]

㋺アクニア航海ニハ

~~当方ヨリ八十八様ノ手附備隊司令ニ申訓セラレ度~~

~~ト共ニ其後同地駅ニ通牒有リ戦海軍ハ十二日~~

同宮海峡掃海航路ニ浮標設置ヲ願ハレ度

ナルニ付

~~都合ニヨリ且ツ林長官ニ右趣旨ヲ以テ可然切ラ~~

ハ之ニ回答セラレタシ

(乙號用紙)

外務省

電信案

伊集院大臣

在支
芳澤公使

「サマルガ」事件其他ニ關スル露國側抗議ニ對スル回答

第六九八號

貴電第一〇三一號ニ關シ

貴官ヨリ「カラハン」ニ對シ成ルヘク公式ナラサル形式ニ依リ左ノ趣旨ヲ以テ回答セラレタシ

（別紙全文挿入）

外務省

(已號用紙)

九月二十日帝國驅逐艦二隻沿海州「サマルガ」派遣ニ關シテハ帝國政府ハ其ノ前日在「サマルガ」本邦林業關係者ヨリ同地當業者カ引揚準備中露國官憲ノ爲通譯三名ヲ監禁セラレ且武裝セル多數露國人並支鮮人ハ事務員及人夫ヲ威迫シテ人員物件ノ乘船ヲ妨害シ事態急迫セルニ付至急救援ヲ乞フ旨報道ニ接シタルヲ以テ事邦人ノ生命ニ關シ猶豫スヘカラサル事情ニ鑑ミ不取敢亞港ヨリ驅逐艦二隻ヲ同地ニ急行セシメタル次第ニシテ右事情ハ當時遲滯ナク在浦潮帝國總領事代理ヲ通シ同地露國官憲ニ通告セシメタリ而テ驅逐艦「サマルガ」到着ノ當時監禁セラレタル邦人ハ已ニ釋放セラレ居リタルヲ以テ帝國海軍官憲ハ事件ヲ調査シ邦人側ヲ說示シ事件ノ圓滿ナル解決ヲ計リタルコトアルモ武力ヲ以テ露國地方官憲ニ强要シ又ハ「シドニ」

外務省

(已號用紙)

3-2214

0233

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(已號用紙)

丸ヲシテ同地ニ於テ掠奪ヲ行ハシメタル事實ナリ

又露國側ハ露國領海內ニ於ケル日本水雷艇ノ露國汽船抑留及航路浮標押收ノ件ニ付抗議セシ處元來間宮海峽北部ニ於ケル浮標ニ就テハ本年四月露國側ニシテ南北水道及尼港方面ノ航行ニ支障無カラシムル爲適當ノ措置ヲ講スルニ於テハ之ヲ露國側ニ返還シ差支ナキ旨在浦潮帝國總領事代理ヲ通シ露國側ニ申入レタル次第アルニ拘ラス露國側ハ之ニ對シ何等回答ヲ爲スコトナク右浮標ノ受領其他ニ就テモ何等ノ措置ヲ講セサリシニ付已ムヲ得ス帝國海軍ニ於テ本年五月航路浮標ヲ設置シタルモノナリ從テ帝國海軍ニ於テハ右ノ關係上同方面本年度航海終止ト共ニ從來通リ之ヲ揚收スルコトトシ十月五日軍用船栗橋ヲ派シ間宮海峽北部ニ於テ右浮標ノ撤收ニ着手セルニ一露國

外務省

3-2214

0236

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

（巳號用紙）

汽船カ既ニ右浮標六個ヲ揚收シ引續キ作業中ナルヲ發見セルヲ以テ既ニ帝國海軍ノ保管スル浮標ヲ露國側カ適當ノ手續ニ依ルコトナク無斷持去ラムトスルノ不當ナルニ鑑ミ同汽船ニ搭乘セル露國水路監視官ト交渉ノ上浮標及屬具ヲ回收セルモノニシテ當時海峽水道ニハ日本驅逐艦在リタルモ露國汽船ヲ抑留セルノ事實ナシ

事件ノ經緯如斯ニシテ帝國軍艦ノ露國港灣入港ニ關シテハ緊急已ムヲ得サル場合ノ外原則トシテ一般國際法規慣例ニ違フハ勿論ニシテ又「サマルガ」ニ於ケル「シドニー」丸ノ行爲ノ適否ニ付テハ尙關係當事者ヨリ十分事實ノ眞相ヲ明ニスル必要アルヘキモ前述ノ事情ニ顧ミ帝國政府トシテハ右孰レノ事件ニ關シテモ露國側ニ對シ何等責任ヲ負フヘキ事由ナク從テ何等賠償ノ責ニ任スヘキ理由ナシ

外務省

3-2214

0237

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六九八

責任ヲ負フヘキ事由ナク從テ何等賠償ノ責ニ任スヘキ理由ナシ
ニ顧ミ帝國政府トシテハ右孰レノ事件ニ關シテモ露國側ニ對シ何等
係當事者ヨリ十分事實ノ眞相ヲ明ニスルノ必要アルヘキモ前述ノ事情
又「サマルカ」ニ於ケル「シドニー」丸ノ行爲ノ適否ニ付テハ尚關
ヲ得サル場合 原則トシテ一般國際[illegible]慣例ニ遵フハ勿論ニシテ
事件ノ經[illegible]如斯ニシテ帝國軍艦ノ露國港灣入港ニ關シテハ緊急已ム
日本驅逐艦在リタルモ露國汽船ヲ抑留セルノ事實ナシ
露官ト交渉ノ上浮標及屬具ヲ回收セルモノニシテ當時海峽水道ニハ
無斷持去ラムトスルノ不當ナルニ鑑ミ同汽船ニ搭乘セル露國水路監
督ニ帝國海軍ノ保管スル浮標ヲ露國側カ適當ノ手續ニ依ルコトナク
汽船カ既ニ右浮標六個ヲ揚收シ引續キ作業中ナルヲ發見セルヲ以テ

3-2214
0238
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電送第6333號 暗
13年6月19日後6時40分發

暗

大正十三年六月十九日

歐米局長

幣原大臣

在支

太田代理公使

間宮海峡航路標識ニ關スル露國側申出ニ對スル回答

貴電第四九二號ニ關シ樺太附近浮標ニ就テハ客年往電第六九八號所載ノ通リノ事情ニテ我方ニ於テ設置シ來リタル所同年十月露國側ヨリ黒龍海灣航路標識中露國ノ所有ニ屬シ而カモ我方ノ保管セルモノノ還附方申出アリタルニ付我方ハ露國側ニ於テ確實ニ標識ヲ設置スルニ於テハ之ヲ還附シ差支ナキ旨客年十二月在浦潮帝國總領事代理

外務省

(巳號用紙)

ヲ通シ露國側ニ申入置タルニ拘ラス其後露國側ヨリ何等回答ナカリシヲ以テ從來通帝國海軍ニ於テ航路標識ヲ設置スル方針ニテ準備シ來リタル次第ナルカ本月四日第六驅逐隊ハ間宮海峡方面ノ解氷狀況視察中露國碎氷船「ナデヨージヌイ」及測量船「インジエネール」ノ二隻ヲ認メタルカ碎氷船「ナデヨージヌイ」ニ搭乘セル極東水路部長「ダウイドフ」ヨリ同人ハ中央政府ノ命ヲ承ケ全水道ニ航路標識設置ノ爲浦潮ヨリ來航シタルモノナルニ付浮標交附並設標ニ關シ帝國政府ニ通告方申出タル趣在亞港防備隊司令ヨリ海軍省ニ稟報アリタルヲ以テ海軍側ハ如前記露國側ヨリ何等回答ナカリシ次第ニシテ我方ノ措置ハ間然スル所ナキモ尚露國側ノ申出ニ顧ミ右「ダウイドフ」ノ資格確實ナルニ於テハ同人ニ尼港寄水路ニ要スル浮標ヲ交

外務省

(巳號用紙)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附シ間宮海峡樺太水道ノ分岐點以南ノ水路ニ對シテハ露國側ヲシテ設置セシムルコトトシ差支ナキコトトシ其旨「ダウイドフ」ニ回答セシメタリ但シ樺太航路ノ浮標ハ北樺太カ我軍ニ於テ占領中ナル事實ニ顧ミ我方ニテ設標スルヲ適當トスルニヨリ其旨併セテ「ダウイドフ」ニ説述セシメタル趣ニシテ我海軍ハ其設標準備ヲ完成シ解氷ヲ俟チツヽアル次第ナリ

事情如斯ニシテ我方ハ何等露西亞側ノ作業ヲ妨害シタルコトナキノミナラス樺太航路ニ關スル以外ハ先方ノ申出ヲ容レタル次第ナリ又樺太航路ノ浮標ヲ設置スル場合其西方基點ノ部分ニツキテハ右敷設ニ從事スル船舶カ露國領水内ニ入ルノ止ムヲ得サル次第ハ露國側ニ於テモ諒得ニ困難ナラサルヘシ要スル所本件浮標ノ設置ハ一般船舶ニ對シ水路ノ安全及便宜ヲ圖ラムトスルニ外ナラサルヲ以テ樺太水道ニ就テハ如前記我方ニ於テ之ヲ設置スルヲ適當ト認ムルモ強テ先方ニ於テ右ノ部分ヲモ設置シタシトノ希望ナルニ於テハ必要ナル時期迄ニ（本年ハ解氷後レ居ル爲メ特ニ設標ヲ急ク必要アリ今ヨリ一週間内ニ完成スルヲ要ス）確實ニ之ヲ設置シ且其設置後モ之レカ管理ヲ怠ラサルノミナラス通過船舶ニ對シ浮標設置ニ關連シ何等ノ課金ヲ徴セサルコトトスル場合ニハ我方ハ露西亞側ニテ之ヲ設置スルニ異存ナク又露西亞側カ右條件ヲ承認シ設置セムトスル場合ニハ直ニ我方ニ於テハ現場ニ在ル海軍軍憲ニ訓令シ露國側ト打合スルコトニ取計フヘキニ付右ノ次第「カラハン」ニ詳細申入レラレ其結果電報アリタシ

外務省（巳號用紙）

外務省（巳號用紙）

日露関係（航路標識問題）

小村殿

本省著 大正十二年六月二十日后

大正十二年七月五日 接受

太田臨時代理公使

外務大臣

第五三七號

貴電第四一〇號ニ関シ

六月二十日夜ヨリ[illegible]訪問東京ノ[illegible]詳記シタル處[illegible]送[illegible]料ヲ報告スベキモ[illegible]料ト[illegible]中ニハ[illegible]従前ノ[illegible]本件ノ[illegible]日本側[illegible]東京ノ[illegible]ト

海軍ヘ写

北京五不

難[illegible]露国側トシテハ因已ノ[illegible]此種ノ標識[illegible]設[illegible]権利アルトノ[illegible]故ニ日本側[illegible]ニ[illegible]上[illegible]此點ハ[illegible]料ノ[illegible]日本側モ[illegible]今回[illegible]一[illegible]課程ノ如キハ[illegible]徴収[illegible]海軍[illegible]事

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

[illegible]積[illegible]至急御取計ヲ得[illegible]

[illegible]猶田中顧問ニ於テ右様御決定

上ハ[illegible]通[illegible]御回示[illegible]

[illegible]電報[illegible]

[illegible]不開[illegible]

[illegible]

[illegible]同時[illegible]回訓ニ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]御

3-2214

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

東方通信

六月廿一日第十號　　廿一日北京發東方通信

航路標識問題

◎黒龍江口の浮標問題　　大正十三年七月五日 記錄係接受

本日太田代理公使は島領事と共にカラハン氏を訪ひ過般カ氏より抗議ありたる黒龍江口近海の浮標設置問題に就いて今日迄の經過と日本側の立場を説明したがカ氏も亦露國側の立場を主張する所あり結局カ氏より此際論議を止め迅速圓滿に解決されたしとの申出ありたるより一應東京に請訓する事となつた。

3-2214

0243

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電送第5426號
大正13年6月23日前後4時

通商局

次

電信案

主管 歐米局長
(起草 大正十三年六月廿三日)
大正十三年七月五日 發

受信人名 在支 芳澤代理公使

發信人名 幣原大臣

件名 (間宮海峽航路標識ニ關スル件)

第四一四號 至急

貴電第五三七號ニ關シ
海軍ニ於テモ~~事實上有力者タル露國委員ト~~「カラハン」ノ言ニ信頼シ直ニ現場ニ在ル海軍軍艦ニ訓令シ露國側ト打合スルコトトシタルニ付之ヲ「カ」ニ通報スルト共ニ同人ヨリ至急露國出先官憲ニ電訓スル様申入レラレタシ

外務省

(丙號用紙)

(乙號用紙)

3-2214
0244
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

門
類
項
號

了 宗谷海峡取扱 標識

写 如何ヘ 回

支
8406
(暗)

北京発 本省着 大正十三年六月二十七日 後六、〇四 後一〇、〇〇

幣原外務大臣　芳澤公使

第五四五号
貴電第四一四号ニ関シ為念往電第五三〇号
「カラハン」ノ言明ヲモ記入シタル露文覚書ヲ作
成シテ六月二十四日[illegible]「カ」ニ面会シ御来示ノ
次第ヲ伝達シ右覚書ヲ交付シタルニ「カ」ハ
右一読ノ上日本海軍ヨリ出先当局ヘノ命令
ハ如何ナル内容ノモノナリヤト詰問シタルニ依リ本使ハ
右訓令ニシテ明瞭ヲ欠クモ右ハ多分問題ノ
海面ニ於ケル露国側ノ浮標敷設ニ異議無キ
事ヲ現場ニ於テ然ルヘク露国当局ト協議
セシムル趣旨ナリト思考スル旨ヲ答ヘタルニ「カ」
ハ帝国ノ好意ヲ深謝シタル上早速即日浦汐
当局ニ対シ浮標受領敷設方ニ付関係日本
海軍当局ト円満協議スヘキ旨打電スヘシト
回答セリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電送第五四六三號 暗
大正十三年六月廿三日午前十一時五〇分發

門類項號

電信案

歐米局第一課

大正十三年七月七日 記録係接受

幣原大臣

在支 太田代理公使

（間宮海峡航路標識設置ニ關スル件）

第四一八號

往電第四二四號ニ關シ

海軍ニ於テハ本月十三日出先海軍官憲ヨリ間宮海峡ノ浮標設置終了ニ關スル電報ヲ接受シタルモ同電文中「終了スル」ヲ「終了ス」ト誤讀シ今日迄其ノ趣旨ニテ事件ヲ取扱ヒ來リ今回貴地ニ於ケル交渉ニ基キ廿三日出先官憲ニ對シ露國側ト打合ノ上露國側ニ設標セシムヘキ旨電訓シタル處既ニ十二日設標ヲ終レル旨回電ニ接シ始メテ前記誤讀ノ次第判明シタル趣ニシテ右誤讀ニヨリ事態ノ混雜ヲ來シタルハ海軍側ニ於テ遺憾トシ居ル次第ナリ就テハ海軍ハ我方ノ設置シタル浮標ヲ其儘露國側ニ引渡シ以テ本事件ヲ終了セシメタク若シ強テ先方ニテ自ラ設標シタシト主張スルニ於テハ右浮標ハ我方ニテ之ヲ撤收シ露國側ヲシテ設標セシムルモ差支ナシトノコトナルニ付「カラハン」ニ對シ右事情ヲ適宜説明シ前記今後ノ措置方ニ關スル先方意嚮回電アリタシ

（樺太航路ノ設標ハ完了セザルモノト判斷シ）

（已號用紙）

外務省

（已號用紙）

外務省

3-2214

0246

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六月廿五日海軍省軍務局第一課長ト打合ノ結果下ノ如ク黒字ノ通リ訂正ノ上打電セリ（亀山）

原文ニアラス

（丙號用紙）

電信案

暗號	
發電	大正十三年六月廿五日午後十一時五十分
主管	歐米局長
主任	歐米局第一課
起草	大正十三年六月廿四日
受信人名	在支 太田代理公使
發信人名	幣原大臣
件名	（宗谷海峡航路標識設置ニ関スル件）
奉天經由 長春經由	

第四一八號

往電第四一四號ニ関シ

海軍ニ於テハ既ニ本月十三日出先海軍官憲ヨリ向宗谷海峡ノ浮標設置終了セルモノニ関スル電報ヲ接受シ居リタルモ右ハ同電文中終了スルトアルヲ終ラストノ誤読ニシテ今日迄其ノ趣旨ニテ本件ヲ取扱ヒ来リ（出先地ニ於ケル誤断ニ基キ）廿三日出先官憲ニ対シ露国側ト打合ノ上露国側ニ設標セシムヘキ旨電訓シタル処既ニ十二日設標ヲ終ヘル旨回電ニ接シ始メテ前記誤読ノ次第判明シタル次第ナリ

（誤読ノ点アリ樺太航路ノ設標ハ完了セサルモノト判断シ）

（樺太航路ハ）

（ニシテ右誤読ニ因ル誤解ノ為ニ我方ニテ設標ヲ了セラレタルハ露国側ニ於テ遺憾トシ居ル次第ナリ）

就テハ海軍ハ我方ノ設置シタル浮標ヲ甚タ促シ露国側ニ引渡シ以テ本件ヲ終了セシメタク若シ強テ先方ニテ自ラ設標シタシト主張スルニ於テハ右浮標ハ我方ニテ之ヲ撤収シ露国側ヲシテ設標セシムルモ

（乙號用紙）

外務省

差支ナシトノコトナルニ付「カラハン」ニ対シ右事情ヲ適宜説明シ~~井上~~
~~回答ヲ求メラレ~~シ右記以後ノ措置方ニ関スル貴方意
見何分回電アリタシ

（乙號用紙）

外務省

3-2214

0248

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

間宮海峡航路標識設置ニ関スル件

大正十三年七月五日 係長

大正十三年六月廿四日海軍省軍務局第一課小林中佐来省

本件ニ関シ語ル所左ノ如シ（亀山記録）

六月十三日臨時海軍防備隊司令ヨリ間宮海峡ノ浮標設置終了セル旨電報アリタルモノナル処（別添甲号）右設置区域ハ今回ノ露国海軍区域ヲ含マサルモノト誤解シタルト（他面）電文誤送ノ為（発アスヘ経ラズト読ミタリトイフ）黒龍江海湾附近ノ浮標ハ未設置ノコトヽ思考シ甚城当ニ係リ今日迄本件ヲ取扱ヒ来リ

外務省

タル処昨廿三日海軍省ヨリ臨時海軍防備隊司令ニ「カラハン」中央ノ趣旨ヲ伝ヘ露国先方官憲ト打合ヲナスヘキ旨訓令スルト共ニ設標ノ情況ヲ問合セタルニ対シ（別添乙号）廿四日設標ハ既ニ十二日終了セル旨並露国側ハ十二日間宮海峡南水道十二番浮標附近設標ヲ為シ中央政府ノ請訓ノ為尼港ニ向ヘリ、以後作業ヲ中止シアリ、露国側カ設標ヲ望ムニ於テハ我カ設置シタル浮標ヲ撤収シ露国側ノ設標ヲ許スコトヽスル筈ノ旨回電（別添丙号）ニ接シ始メテ右ノ手違ヲ発見シタル次第ニシテ斯ル手違ヲ生シタルハ誠ニ遺憾ナリ。

外務省

3-2214
0249
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

就テハ海軍トシテハ本件善後策トシテ已ニ我方ノ設置シタル浮標ヲ其儘露国側ニ引渡スコトヽシ（註浮標其物ハ元来露国側ヨリノ押収品ナレハ早晩還ス必要アルモノナラト）以テ本件ヲ終了セシメ度シ而シテ露国側ニテ飽ノ迄自ラ設標シタルト主張スルニ於テハ我方ノ設置シタル浮標ハ之ヲ撤収シ露国側ヨリシテ設標セシムルモ差支ナシ云々。

外務省

3-2214
0250
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(甲号)

秘 寫

大正十三年六月十三日 午前十時十五分發
午後九時 十 分著

發信者 臨時海軍防備隊司令

受信者 軍務局長

電報譯(暗號)

臨時機密第二十二番電報

間宮海峽ノ浮標設置終#30スス暫ク水道警備並ニ今後交渉ハ露國ヘ浮標返還ノ爲第六驅逐隊膠州ヲ間宮海峽附近ニ止メ置ケリ

六月十三日

外務省

(巳號用紙)

(乙号)

秘 寫

大正十三年六月二十三日

海軍省軍務局長

臨時海軍防備隊司令宛

大正十三年七月五日 記錄係接受

軍務機密第二五番電報

樺太水道設標ニ關シ「カラハン」ヨリ交渉アリタルヲ以テ露國ニ於テ一定期間ニ正確ニ設標シ之カ監視補修ニ任シ且ツ邦船ノ通過ニ對シ課税セサルコトヲ承諾スルニ於テハ露國側ニ於テ設標スルコトシ差支ナキ旨回答セル處「カラハン」ノ言明スル所ニヨレハ事實上右條件ヲ容ルルモノト認メラル尚「カラハン」ハ出先官憲ニ於テ打合ヲ遂ケ度希望ノ爲ニ付右趣旨ニ依リ可然取計ハレ度右依命

追テ設標ノ情況至急電報アリタシ

終

海軍

邦文タイプライター用紙

3-2214

0251

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

秘 寫

（丙号）

大正十三年六月 二十三日午后九時二十分發
二十四日午前五時八分着

發信者 臨時海軍防備隊司令

受信者 軍務局長

電報譯（暗號）

臨防機密第二七番電報

軍務機密第二五番電報了承

樺太水道ニハ臨防機密第二二番電報ニテ報告セシ通ナリ去十二日設標ヲ結了シ驅逐艦二隻ヲ配シ警戒中ナリ

露國側ハ十二日間宮海峽南水道第十二番浮標附近設標ヲ爲シ中央政府ニ請訓ノ爲尼港ニ向ヒタリ

（已號用紙）

外務省

以後作業ヲ中止シアリ露國側カ樺太航路ニ設標ヲ望ムニ於テハ御指示條件承諾セハ已ニ設置シタルモノ我浮標ハ撤收シ彼ノ設標ヲ許スコトトス左樣御承知相成度

六月二十三日

（已號用紙）

外務省

3-2214

0252

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣

次官

亞細亞　歐米　通商　條約　情報　人事　會計　文書　平和條約　對支文化

門	3
類	6
項	6
號	

件名	門司海峽航路標識
綴込名	航路標識

8493

（暗）

北京発　大正十三年六月二十六日前二、四〇

本省着

大正十三年七月　日　記録係接受

大正十三年七月参日　記録係接受

幣原外務大臣　　太田代理公使

発第五五一號

貴電第四一八號ニ關シ

二十五日本官「カ」ト會見シ右来示ノ次第ヲ傳フルト共ニ斯ク事態ノ混雑ヲ来タシタルハ我海軍側ニ於テ遺憾トシ居ル次第ナル旨ヲ附言シタル処「カ」ハ本件ニ付テハ既ニ莫斯科及浦潮ニ電報濟ナルガ要スルニ主義上ノ話ハ既ニ定マリ居リ日本海軍ノ希望通ニスルカ又ハ露國側ガ改メテ設標スルカハ事實ノ問題ニシテ斯ル問題ニ付当地ニテ以上往来ヲ重ヌルハ好マシカラザルニ付右ハ現場ノ露國官憲ノ考ニ依ラシムルコトトシ同官憲ヲシテ直接日本側出先官憲ト折合サシムルコトト致シ度キニ依リ日本側ニ於テモ其旨出先官憲ニ傳達シ置カルルコトニ願ハレマジクヤト申出タリ右ニ對シ本官ハ右ニテモ差支ヘ無シト答ヘ置リ就テハ海軍ヨリ出先官憲ヘ然ルベク措置方御訓令相成様致度シ

3-2214

0253

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

門
類
項
號

軍務機密第二七番電報

大正十三年六月二十七日発電　海軍省軍務局長

欧米局長

臨時海軍防備隊司令宛

軍務局第一課

大正十三年七月十日　記録係接受

樺太水道設標ニ関シ交渉中ノ處主義ニ於テ日露両國ノ意見一致シ実施上ノ問題ニ関シテハ出先官憲ニ於テ協議スルコトニ決定セルニ付軍務機密第二十五番電ノ趣旨ニ依リ交渉アリ度

右交渉成立ノ上ハ現ニ設置セル標識ハ其ノ儘之ヲ露國側ニ引継クコトトシ若シ露國側ニ於テ希望スルニ於テハ之ヲ撤收シ露國側ヲシテ新ニ設置セシメラレ差支ナシ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電送第5782號
大正13年7月7日(前)6時1分發

門
類
項
號

電信課長

電信案

暗號

發電 大正 年 月 日 午前 午後 時 分

送電番號

主管 歐米局長

主任

(起草 大正十三年七月五日)

受信人名 在支 芳沢 太田代理公使

發信人名 幣原大臣

發大正十三年七月拾日 記錄係接受

件名 (当宮海峡航路標識ニ関スル件)

綴込名 航路標識

要自付

第四三〇號

貴電第五五一號ニ關シ

海軍ニ於テ同電末段ノ趣旨ヲ出先官憲ニ訓電シタル處同官憲ヨリ露國側ハ今日迄何等交渉シ來ラス驅逐艦作業及我商船[illegible]

[illegible]御承知シタル次第ニ依レハ露國船「インジエネール」及「ナジヨージヌイ」ハ航海ニ沛潮ニ歸リタルモノ加之其處今更露國側ニ於テ日本カ樺太航路ニ設標ヲ終リタル後ナルヲ以テ交渉ヲ打切リ此儘放置スルモノニアラサルカト思ハル尚露國ノ当宮海峡附近ニ艦艇ヲ配シ監視セシメ若シ交渉ニ來ルコトアラハ之ニ應スル積リナル旨電報アリタル趣ナルニ付右ノ趣適當「カラハン」ニ通報セラレ度シ

(丙號用紙) (乙號用紙)

外務省

3-2214
0255
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

寫

大正十三年七月四日

臨時海軍防備隊司令

海軍省軍務局長宛

大正十三年七月拾日 記錄係接受

電報

臨防機密第三二番電報

露國側ハ間宮海峡南北水道ノ設標終リタル以來今以テ間宮海峡浮標ノ件ニ關シ交渉シ來ル模樣ナク驅逐艦ノ偵察及我商船ヨリ偵知シタル處ニ依レハ設標ニ於テモ「インヂネール」及「ナジヨーヌイ」ハ尼港泥港及間宮海峡附近ヲ去リ浦鹽ニ歸リタルモノノ如シ彼ノ眞意ハ測リ難キモ露國側ニ於テ日本ニテ樺太航路ニ設標ヲ終リタル後ナルヲ以テ交渉ヲ打切リ此儘放置スルモノニアラサルカト思ハル尚當分ノ間間宮海峡附近ニ艦艇一隻宛ヲ配シ監視竝ニ若ハ交渉ニ來ルモノアラハ之ニ應スル積ナリ

七月四日

3-2214

0256

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

間宮海峡航路標識

大正十二年六月二十六日後 本省着

内田外務大臣　　　太田代理公使

大正十二年七月拾日 記録係接受

第　号

貴電第　号ニ関シ

二十四日本官ヨリカラハンニ會見シ本件ニ就テ來示ノ次第ヲ
傳フルト共ニ斯ク如キ状態ノ混雑ヲ来タシタ
ルハ我海軍側ニ於テ遺憾トシ居ル次第ナ
ルコトヲ附言シタル処同氏ハ本件ニ付テハ既ニ莫
斯科及浦潮ニ電報済ナルガ要スルニ主義
上ノ話ハ既ニ定マリ居リ日本海軍ノ希
望通ニスルカ又ハ露國側ガ改メテ設標スル
ルカハ事実ノ問題ニシテ斯ル問題ニ付当地ニ
テ以上ニ從来ヲ更メルハ好マシカラス
若シ現場ノ露國官憲ノ為ニ依ラサル
トニ同官憲ヲシテ直接日本側ノ官憲
ト打合サシムルコトト致シ度
ニ於テモ其旨當該官憲ニ
ニ側ハレ...ト申出
...支ヘ無シト存ス
...ニ達スル措置...

浦潮ヘ転電セリ

要再回

門	3
類	6
項	6
號	

文書課長検印

大正十三年七月拾日接受

文書課發送 大正十三年七月拾壹日發送濟

主管 歐米局長

主任 歐米局第二課

起草 大正十三年七月十日

淨書 みつ子

校正（原稿）

機密 普通 第六九號

大正13年7月11日附

受信人名 安保海軍次官

發信人名 松平外務次官

大正十三年七月拾六日記錄係接受

件名 間宮海峽航路標識ニ關スル件

縫込名 機密 ...

附屬書 別紙

公信案

本件ニ關シ過般貴省軍務局ヨリ送附越セル本月四日附臨時海軍防備隊司令發軍務局長宛電報ノ趣旨ヲ「カラハン」ヘ傳達方別添甲號寫ノ通在北京芳澤公使ヘ電報相成置キタル處今般別添乙號寫ノ通リ同代理公使ヨリ電報有之候ニ付右茲ニ及通報候也

別紙甲號 芳澤公使宛往電第四〇號寫

乙號 芳澤公使來電第五八〇號 訂正ノ通リ寫取リ

添付ノコト

外務省

（甲號用紙）

（乙號用紙）

3-2214

0258

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

別紙

大

九〇四三 暗 北京発 本省着

幣原外務大臣　　太田代理公使

大正十三年七月拾六日 記録係接受

往電第四〇四號ニ関シ

七月八日本使カラハンニ往訪談話末尾ニ決議ヲ
促シタル所一方カラハ六月廿五日本使ト談合ノ
決議（往電第五五二號）ハ当時之ヲ補
設ヨリ燃料ニ中途ニ必要ナル数日後撤去
水路深標ニ関シテハ日本側設標ノ儘ニテ引
続キ残スルコトニ決定シタル旨ノ回答ニ接シタリ

然ルニ右決定ハ捕獲当局ヨリ出先艦船
ニ通知セラレ居ラスヨリ漂遣サルルニ至ラ
レテ行進ニ支障船舶捕獲ニ帰リタルモノト
思ハルルニ依リ東支ノ右艦艇ニ対シ同
官此峡ニ赴カシメ早速日本側ト協議スル
様取計ヒ右艦船ハ不日現場ニ引揚
スヘキ運ヒトナルヘキ旨語リ居リタリ

本件伴随 七月八日

電送 第6267號 大正13年7月26日 後3時 分發

門
類
項
號

電信課長

電信案

暗號

主管 歐米局長

發電 大正 年 月 日 午前 午後 時 分

主任 歐米局第一課

(起草) 大正十三年七月廿五日

送電番號

大正十三年七月拾九日 記錄係接受

受信人名 在支 太田代理公使

發信人名 幣原大臣

件名 (多宮海峡航路標識ニ関スル件)

綴込名

第 四七一 號

貴電第五八〇號ニ関シ

今般出先官憲ヨリ海軍省ヘ別電第四七二號ノ通リ電報アリタル趣ノ處通航税ヲ課セサルコトニ関シテハ貴電第五三七號ノ通リ既ニ「カラハン」モ之ヲ言明シ居ル次第ナルニ付同人ト本件ノ解決方協議相成様申入レラレ結果回電アリタシ

(乙號用紙)

(丙號用紙)

奉天經由

長春經由

外務省

電送第6268號
大正13年7月26日 前後 3時20分發

電信課長

暗號	〓
主管	歐米局長
受信人名	在支 大田代理公使
件名	（間宮海峡航路標識ニ関スル件）
第	四七二號 別電
發信人名	幣原大臣
主任	歐米局第一課
起草	大正 年 月 日

我方ノ督促ニ應シ廿一日（露ノ）設標船「インジエネール」「デカストリー」ニ来リタルヲ以テ（一）航路設標引揚ケ後ハ之ヲ補修シ常ニ通航ニ不便ナカラシメ（二）此年以後モ解氷後遅滞ナク浮標ヲ設置シ（三）各水道共一般船舶ニ對シ通航自由ナルコト及（四）樺太航路及（五）ニ関聯シ間宮海峡南水道ノ南部ヲ通航スル日本船舶ニ對シ如何ナル名義ヲ以テスルモ課税セサルコトノ四条件ヲ提示シテ交渉シタル処（浦潮ニ向合セノ上）彼ハ第一、二、三項ハ異存ナキモ第四項ノ課税免除ノ件ハ莫斯科ニ請訓セルニ付回答ニ一週間ヲ要スル旨回答セリ

思フニ彼ニシテ第四項ヲ承諾セシメスシテ航路ヲ譲ルニ於テハ今后黒龍海湾沿海ノ我漁業者及通航船舶ノ迷惑及紛議ヲ続発スル虞アルニ付（不承諾ノ）場合ニハ樺太航路ヲ彼ニ譲ラサルコトトスル方然ルヘシト思ハル

電信案 外務省 （丙號用紙）
（乙號用紙）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

寫

秘

歐米局長

大正十三年七月二十四日

海軍省軍務局長宛

臨時海軍防備隊司令

大正十三年八月廿五日記錄係接受

臨防第三十三番

樺太航路航路設標ヲ露國側ニ引繼ノ爲葦埼ヲ加斯士里斯灣ニ派遣シ露國關係官吏ノ來會ヲ促シタル處二十一日設標「インジネール」ニ水路技士ヲ載セ二十一日同地着葦埼指揮官ヲシテ左ノ條件ヲ示シ交渉セシム

一、航路設標引渡後ハ之ヲ補修シ常ニ通航ニ不便ナカラシムルコト

二、明年以後モ解氷後遲滯ナク浮標ヲ設置スルコト

三、各水道共一般船舶ニ對シ通航自由ナルコト

四、樺太航路及之ニ關連シ間宮海峽南水道ノ南部ヲ通航スル日本船舶ニ對シテハ如何ナル名義ヲ以テスルモ課税セサルコト

彼ハ右條件ヲ浦潮海軍部ニ問合セ本二十三日其ノ回答ヲ齎ラセリ其ノ返答ニ依レハ第一、二、三項ハ異存ナキモ第四項課税免除ノ件ハ尚「モスコー」ニ請訓セリ回答ニ約一週間ヲ要スト

案スルニ彼ニ此第四項課税ノ件ヲ承諾セシメスシテ航路ヲ讓ルニ於テハ我主張ハ全然無意味ニシテ黑龍海灣ハ無條件ニテ露國ニ返還シタルト同樣ニテ今後同灣沿海我漁業者及通航船舶ノ迷惑及紛議ヲ續發スヘキヲ慮リ若彼ニテ本項ヲ承諾セサルニ於テハ樺太航路ヲ彼ニ讓ラサルコトトスル方然ルヘシト思ハル御意見如何

七月二十三日

海軍

3-2214

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

機密 受第490號 13.8.8

機密第三六〇號

大正十三年七月十日

第一課

在支那
特命全權公使 芳澤謙吉

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

大正十三年九月貳日 記錄係接受

亞細亞局

本信寫送付先

件名 黒竜江沿岸附近航路標識ニ關スル問題ニ關スル件

本件ニ關シ左記書類及送付候也

	書類要目	備考
甲號	大正十三年六月二十七日太田代理公使ヨリカラハン代表ニ宛テタル覚書写	露文
乙號	大正十三年七月十四日附太田代理公使宛カラハン氏口上書写	同上
丙號	一九二四年七月十二日附カラハン發太田代理公使宛口上書	露文及邦訳文
丁號	大正十三年七月八日附太田代理公使發カラハン宛口上書写	露文
戊號		

カラハンノート露文及訳文ヲ海軍ニ送附ス 八月十日

キロク

3-2214
0263
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ВЕРБАЛЬНАЯ НОТА.

По вопросу о буях около Амурскаго Лимана Поверенный в Делах г.ООТА, 25-го Июня с.г., имел честь сообщить Чрезвычайному Полномочному Представителю г-ну Л.КАРАХАНУ, что Японское Морское Ведомство выражает желание, чтобы этот вопрос был бы разрешен окончательно путем передачи этих буев по Сахалинскому фарватеру русским властям в том виде как они есть или же снять их и предоставить русским властям возможность сами поставить их по фарватеру.

В ответ на это со стороны г-на Л.Карахана последовало предложение, чтобы передать вопрос на разрешение между подлежащими местными Русскими и Японскими властями. Таковое предложение было своевременно передано Японскому Министерству Иностранных Дел и в смысле осуществления этой меры Японским Морским Министерством было сделано местным японским властям соответствующее распоряжение.

Однако по сообщению от японских местных властей русская сторона до сего времени не обратилась к японским властям по сему предмету и по наведенным японским истребителем-миноносцем и коммерческим судном справкам выяснилось, якобы русские суда "Инженер" и "Надежный" уже вернулись обратно во Владивосток. Очевидно русская сторона думает оставить настоящий вопрос в том положении, как он сейчас стоит, так как размещение буев по Сахалинскому фарватеру уже было закончено японской стороной. Тем не менее японским морским властям сделано распоряжение об оставлении одного судна около Татарского пролива с тем, чтобы последнее было бы готово в любое время открыть переговоры с подлежащими русскими властями по сему делу.

Об изложенном обстоятельстве дела Японская Миссия считает долгом поставить Чрезвычайное Полномочное Представительство в известность.-

Июля 8-го дня, 1924 г.

П е к и н.-

3-2214

0264

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(譯文)

(七月十日接受)

一千九百廿四年六月廿六日

第二五一九号/a

覚書

全權代表公館ハ太田臨時代理公使ニ對シ六月廿四日付ヲ以テ貴館覚書ニ基キ照會ノ指令ハ既ニ"サウエート"政府ノ海軍官憲ニ與ヘラレタル旨並ニ通報スルノ光榮ヲ有ス、

六月廿四日付覚書ニ揭ゲラレタル日本政府ノ意見ニ關シテハ誤解ヲ避ケンガ為メ左ノ通リ指摘スルノ必要ヲ認ムルモノナリ、

六月廿日ノ會議ニ於テ"カラハン"氏ハ自己一己ノ意見ヲ述ベタルモノニシテ就中"カラハン"氏ハ左ノ事項ヲ言明シタリ、

樺太艦艇ニ於テ從來船舶ノ通航ニ際シ課金徴收セラレザリシニ於テハ將來ニ於テモ此種課金ガ特ニ日本船舶ヨリ徴收セラルベシト思考サルル理由ナシ、

"カラハン"氏ハ又自己一己ノ[illegible]想トシテ若シ他ノ同様ノ場合ニ於テ諸外國ガ艦船ノ通航ニ際シ課金ヲ徴收セザルニ於テハ"サウエート"露國ハ茲ニ本件ニ關シ確立セル國際慣例ニ違反スルコトナカルベシト述ベタル次第ナリ、

(了)

在支那日本公使館

3-2214

0265

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Копия.-

СЛОВЕСНАЯ НОТА.

По вопросу о плавучих знаках в Амурском лимане Поверенный в Делах Т. ООТА имеет честь на основании телеграфнаго предписания Министра Иностранных Дел Барона Шидехара сообщить Чрезвычайному Полномочному Представителю С.С.С.Р. Г-ну Л.Карахану, что Японское Морское Ведомство, ссылаясь на заявление г-на Карахана 21-го сего июня о том, что русская сторона считает дело о размещении плавучих знаков в своих территориальных водах своим правом и обязанностью, а потому он лишен возможности принять японское предложение по этому поводу на указанных японской стороной условиях, однако фактически само собою разумеется, что русская сторона будет поставлять знаки спешно и правильно к необходимому сезону, при том знаки будут находиться в ведении и под надзором русских властей, и что, сборы со судов в связи с размещением плавучих знаков до сего времени не были взысканы русскими властями и не будут взысканы и в дальнейшем поскольку иностранные государства не будут взыскивать подобнаго рода сборы со судов в аналогичных случаях, решило немедленно же дать инструкцию по сему поводу подлежащим морским властям на месте, чтобы войти в переговоры с русской стороной, а потому просит сделать местным русским подлежащим властям соответствующее распоряжение по настоящему делу в самом непродолжительном времени.-

Июня 24-го дня, 1924 г.

Пекин.-

Копия.

Чрезвычайное Полномочное Представительство Союза Советских Социалистических Республик в Китае.

Пекин, 28 Июня, 1924 г.

№ 2519/а.

ВЕРБАЛЬНАЯ НОТА.

Чрезвычайное Полномочное Представительство имеет честь сообщить Поверенному в Делах Японии г. ООТА, что согласно полученной 24 июня словесной ноты - необходимые указания морским властям С.С.С.Р. даны.

Что же касается соображений Японскаго Правительства, которые приведены в словесной ноте от 24 июня, то во избежание недоразумений, следует указать, что в беседе 21 июня г. Карахан высказал лишь свое личное мнение. В частности, г. Карахан заявил, что если до сих пор сборы при проходе судов в Сахалинском фарватере не взимались, то нет оснований ожидать, что они в будущем, специально для японских судов, могли бы быть установлены. Г. Карахан также высказал свое личное предположение, что если в аналогичных случаях иностранные государства не взимают сборов при проходе судов, то наверное, и С.С.С. Р. не отступил бы от установившейся в этом отношении международной практики.-

ИМПЕРАТОРСКОЙ ЯПОНСКОЙ МИССИИ В ПЕКИНЕ.-

3-2214

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

означеннаго отряда миноносцев вполне правильный, так как оно, как изложено выше, не получало никаких ответов от русских властей, но считаясь с пожеланием русских властей по сему поводу Морское ведомство известило г-на Давидова через местныя морския власти о том, что оно не имеет никакого возражения к возвращению русским властям плавучих знаков, необходимых для фарватера, приближающаго к Николаевску на Амуре, а также не имеет возражения к тому, чтобы русския власти разместили знаки по фарватеру к югу от пункта, откуда Татарский пролив и Сахалинский фарватер расходятся. Что же касается знаков для Сахалинскаго фарватера, то принимая во внимание то обстоятельство, что Северная часть Сахалина ныне занята японскими войсками, Морское ведомство считает целесообразным сами поставить означенные знаки, о чем также было сообщено Г-ну Давидову. Таким образом наши морския власти совершили подготовительныя работы для размещения знаков и ожидают освобождения от льда.

В виду вышеизложеннаго обстоятельства, наша сторона не только не причинила никакого препятствия к деятельности русской стороны, но и исполнила пожелание русской стороны поскольку это касается других кроме Сахалинскаго фарватера. При том был бы неизбежен заход в русския территориальныя воды судов, занимающихся размещением плавучих знаков по Сахалинскому фарватеру, по скольку это касается западной начальной части этого фарватера.

Если же русская сторона пожелает сама поставить знаки и по Сахалинскому фарватеру, то японская сторона готова согласиться на это [illegible], чтобы русская сторона поставила бы эти знаки в случае если эти знаки будут поставлены точно и правильно к необходимому сроку /нужно закончить эту работу в одной неделе, т.к. в этом году освобождение от льда задерживается и следовательно особенно

необходимо спешно поставить знаки/ и будут эти знаки находиться под постоянным надзором русских властей после размещения их, кроме того не будут взысканы с проходящих судов никаких сборов в связи размещением знаков. Если русская сторона пожелает поставить и эти знаки согласившись на вышеизложенныя условия, то наша сторона готова немедленно же сделать местным морским властям соответствующее распоряжение, чтобы обсудить этот вопрос с местными русскими подлежащими властями.-

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Относительно вопроса о плавучих знаках около Сахалина необходимо сказать, что до прошлаго года эти знаки были поставлены японскими властями надлежащим образом и только в октябре месяце минувшаго года со стороны местных русских властей было из'явлено пожелание, чтобы некоторые знаки для Амурскаго лимана, кои принадлежат России но находились на хранении японских морских властей, были бы возвращены русским властям. Мы на это ответили, что если русская сторона аккуратно поставит эти знаки, то мы не имеем никакого возражения к возвращению их русским властям, о чем было сообщено еще в декабре месяце минувшаго года через и.д. Японскаго Генеральнаго Консула во Владивостоке местным русским властям. Однако на таковое извещение японской стороны никакого ответа не последовало со стороны русских властей, а потому нашему морскому ведомству пришлось приготовить к тому, чтобы самим поставить знаки надлежащим образом, и таким образом 4-го iюня с.г. отряд миноносцев отправился к Татарскому проливу с целью ознакомиться с положением плавучих знаков и там же нашел русский ледокол "Надежный" и русское судно "Инженер". Г-н Давидов, Начальник водних путей Дальняго Востока, находящийся на "Надежный", обратился к японским миноносцам с просьбою передать Японскому Правительству своё желание, чтобы плавучие знаки были бы переданы ему, а также о своем желании, что он думает сам поставить эти знаки, т.к. ему необходимо, согласно распоряжению Центральнаго Правительства, поставить знаки по фарватеру и именно для этой цели он прiехал туда. Просьба эта была сообщена от Командующаго флотилией в Александровске японскому Морскому Министерству. Последнее нашло деятельность

3-2214

0268

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

海軍ニ写送附
八月十一日
塩沢

電送第六一五一二號
大正十二年八月九日后二時〇分發

次
佐

門 3
類 3
項 6
號

電信案

暗號

主管 歐米局長

受信人名 在支 芳沢公使

發信人名 幣原大臣

發電 大正 年 月 日 午前/午後 時 分

起草 大正十二年八月九日

送電番號

件名 （多島海峽航路標識引揚ニ関スル件）

綴込名 間宮海峽航路標識

奉天經由

長春經由

第五〇一號

貴電第六三六號及六五五號ニ関シ
海軍側打合ノ結果同省ニ於テモ日露交渉トノ関係ヲ考慮シ成ルヘク
「カラハン」ノ言ル又「ノート」ニ信頼シ標識ニ関シ追及セサルコトニ
決定シ其旨出先ノ官憲ニ打電シタルニ付右御承知相成度
「カラハン」ヘ回答アリタシ

外務省

（乙號用紙）

（丙號用紙）

3-2214
0269
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

海軍

歐米局長

大正十二年八月八日發電

欧米第一課

大正十二年八月九日海軍省軍務局ヨリ受領

海軍省軍務局長

臨時海軍防備隊司令宛

電報

軍務機密第三三番電報

樺太水道航路標識還附ニ關スル條件第四ニ就テハ當方ニ於テモ其ノ必要ヲ認メ居ル處「カラハン」ヨリ課金ニ關シ軍務機密第三十一番電ノ要旨ヲ記載セル「ノート」ヲ送付シ來レル次第モアリ且ツ日露交渉トノ關係ヲ考慮シ此際「カラハン」ノ言明及「ノート」ニ信頼シ課金ニ關シテハ追及セサルコトニ決定セラレタルニ付右方針ニ依リ標識還附方取計ハレタシ依命

3-2214

0270

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

同寺酒谷院故
樗識ニ関スル件

極秘
樗草案有効
（字支附記）
（八日夜）

五

暗一

一　北京発　大正十三年七月廿日　後六、五〇
　　本省着　廿日　前一〇、〇〇

幣原外務大臣　　木田代理公使

第三六號ノ一

貴電第四七一號ニ關シ
已ニ往電第五三七号ニ述ヘタル通リ方ニ於テハ條件我方ノ要望ヲ條件トスルコトハ拒絶シ且其ノ對案ヲモ斯之ニ應セサルヘキコトヲ附言シ然シ實際ニ於テ我方希望ノ通リ取計フヘキ旨ヲ言明セルニ依リ本官ハ貴電第四二一號ニ基キ談判ニ依頼スルトシテ右條件ヲ同點ヲ附ケ右先方ニ於テハ單ニ技術上ノ同點ノ已解決スルコトトナリタル次第ナルニ我方單ニ要望スル所ノ成行キニ拘ハラス先方ニ於テ技術上ノ同點ニ進ミテ入リ條約ノ際ニ於テ不同ノ解決ノコトニ至ルベキ事ニシテ本國政府ノ意向ハ第四七二號中第四項ニ重ネ同意セサリシ所ノ理由アリ又其ノ結果ニ同意ノ結果ノ前點ニ附シ書通リナルカト思ハルル所アリ我方草案ノ行為ハ張両國側ニ鈍ラシムルニ至ルヘキ懸アルニ此上更ニ

大正十三年八月拾貳日 記録係接受

3-2214
0271
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ナカレニ掛ケ合フカ如キハ一層ノ害アルナラント
ニテ此際傍観セラレ候ノ如キ更ニ機宜ニ適シ
ヘキコト思考シ居タルモ

（続ク）

3-2214
0272
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

9367 暗 北京発 本省着 十五年七月二十日后六、五〇 二十一日前八、三五

幣原外務大臣　　太田代理公使

第六三六号ノ二

七月二十三日他用ヲ以テ「カラハン」ト会見シタルニ付夫ト無ク先方ノ模様ヲ探ランコトヲ試ミタルニ「カ」ハ実ハ在「デカストリー」出先官憲ヨリノ電報アリ日本海軍ハ浮標引渡ノ条件トシテ技術的性質ノ三問題ノ外将来水路ハ総テ之ヲ公開スヘク且日本船舶ヨリハ何等ノ課金ヲモ徴セサルヘキコトヲ引渡ノ条件トシテ要求シ来タレル由ニ付自分ヨリ斯ル条件ニハ応スルヲ得スト回答シ置キタルカ一体本件ハ主義上ノ談ハ当地両政代表者間ノ外交上ノ交渉ニテ結了シ課金其他日本側ノ希望ニ就テハ日本側カ自分ノ声明ニ満足セラレ殊ニ課金ノ件ニ就テハ「ノート」（写別途郵送スヘシ）ヲモ送リ玆ニ主義上ノ話ハ完了シ此上ハ出先官憲間ニ於テ引渡ニ関スル技術上ノ手續ヲ議スルコトヽナリ居タルニ今更何分ノ以外改メテ日本海軍側ニ於テ持出サレタルハ了解シ得サル所ナリ、依テ本官ハ本件ニ付本省ヨリ何等通知ニ接シ居ラサルモ篤ト調査スヘシト答ヘ置キタルカ「カ」ハ事実上ハ課金セサルモノト想像スル旨ヲ述ヘ念ヲ押シタルニ「カ」ハ之

ヲ首肯シタルカ事態斯ノ如クナレリ依テ本件
ニ就キ此上ノ交渉ハ差控ヘタシト存ズル処右ニ
モ拘ラズ交渉ノ必要アル次第ナリヤ今一応折返
シ至急回訓ヲ請フ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五

2

10036

（暗）北京発 大正十三年八月四日後 八〇 五、三

幣原外務大臣 芳沢公使

第六五五號

貴電第四八七號ニ関シ

課金ニ関スル本月廿八日附カラハンヘノ書ハ七月廿一日郵送済ミナルガ其大要左ノ通

本月廿一日ノ會談ニ於テカラハンハ自己一個ノ意見ヲ述ベ課金問題ニ付左ノ通リ言明シタリ即チ蒙古航路ニ於テ従来船舶ノ通航ニ際シ課金徴集セラレサリシニ於テハ將來ニ於テモ此種課金ガ特ニ日本船ヨリ徴集セラルルコト思ナサルル理由ナシ之ニ反シ左ト公務ノ課金ニ於テ諸外国ガ船舶ノ通航ニ際シ課金ヲ徴集セサルニ於テハ日本モ之ヲ徴集セサルトシ関係國ト協ク本件ニ関シテ確立セル國際慣例ニ遵反スルコトナカルヘシ

（了）

大正十三年八月拾[illegible]日 記録係接受

海軍ノ関係アリ（八月五日）
（写送付課長ヨリ通知アリタシ）
[illegible]

門	3
類	6
項	6

電信課長　大臣　次官

亞細亞　歐米　通商　條約　情報　人事　會計　文書　平和條約　對支文化

第五 10036

（暗）北京發 大正十三年八月四日后五、三〇 八、〇

本省着

芳澤公使

幣原外務大臣 宛

件名 燈台燈船浮標

綴込名

第一五五號

貴電第四八七號ニ關シ

課金ニ關スル六月廿八日附「カラハン」「ノート」ハ七月廿一日發送濟ミナルガ其大要左ノ通

六月廿一日ノ會談ニ於テ「カラハン」ハ自己一個ノ意見ヲ述ベ課金問題ニ付左ノ通リ言明シタリ即チ權内航路ニ於テ從來船舶ノ通航ニ際シ課金徴集セラレサリシニ於テハ將來ニ於テモ此種課金ガ特ニ日本船ヨリ徴集セラルヘシト思考サルル理由ナシ又若シ右ト同樣ノ場合ニ於テ諸外國ガ船舶ノ通航ニ際シ課金ヲ徴集セサルニ於テハ「ソウエート」聯邦國モ恐ラク本件ニ關シテ確立セル國際慣例ニ違反スルコトナカルヘシ

（了）

0276
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電送第6399號
大正13年八月16日 時 分發

門 3
類 6
項 6
號

電信課長

暗號 平文

發電 大正13年八月16日 時 分

起草 大正十三年八月十四日

送電番號 大三九九

主管 歐米局長

主任 歐米局第一課

受信人名 在支 芳澤公使

發信人名 幣原大臣

件名 （南宮海峡航路標識ニ関スル件）

綴込名 番口燈台燈船浮標

第一八七號

貴電第六三六號ニ関シ

課金ノ件ニ関スル「ガラハン」ノ「ノート」大要電報アリタシ

大正十三年八月拾九日記録係接受

外務省

次官

キルク

歐米局第一課

南宮海峡航路標識ニ関スル件

本件ニ関シ大正十三年八月六日海軍省軍務局小林中佐ヨリ電話ニテ左ノ通申出アリタリ（亀山聴取）

芳沢公使来電第六五五號ヲ以テ外務大臣宛ニ報告アリタル課金ノ件ニ関スル「ガラハン」ノ「ノート」ニ記サレタル同人個人ノ声明ニ信頼シテ総税務司ノ説人ナリト云フ外務省ニテ御承知ナラバ海軍省トシテモ（声明ニ）信頼シテ本件ヲ解決シタシ

外務省

（註）監理課島田領事ノ談ニ依レハ從來露國ハ尼港往復ノ船舶ニ對シテハ水先案内料ヲ徴收シ來リタルモ他ニハ間宮海峡通過船ニ對シ案内料ヲ課シタルコトナシト記憶ストノコトナリ又右以外何等課税ナカリシ趣ナリ

海軍省トシテハ「カラハン」ノ声明カ個人的ノモノナル[redacted]ニ依リ幾分ノ

慰メナキニシモアラス

尚從來露國ハ尼港ニ於ケル船舶ニ對シ水先案内料ヲ課シ（註）

居タル樣記憶スル如今迄海軍ニ於テ浮標ヲ設置シ來リシ樺

太水道ニ關シテハ（北樺太カ我占領地ナルニ從ヒ）水先案内料ヲ含ミ一切ノ課金ヲ課スル

コトナキモノトセシメサル（カラカンモ）ト思考ス

外務省

（乙號用紙）

門 3
類 6
項 6

文書課長

公信案

大正十三年八月九日接受

大正十三年八月拾壹日發送濟

文書課發送

主管 歐米局長

主任 歐米局第一課

起草 大正十三年八月　日

淨書

校正（原稿）

（淨書）

政 機密 第八一號

大正13年8月11日附

附屬 別紙 通

受信人名 安保海軍次官

發信人名 松平次官

大正十三年八月拾六日記錄係接受

件名 間宮海峽航路標識引續ニ關聯スル通航船舶ニ對スル課金問題ニ關スル「カラハン」覺書寫送附ノ件

綴込名 燈台燈船浮標

過般貴省軍務局第一課ニ送附致置候在支芳澤公使來電第六五五號ノ寫ニ記載セラレタル樺太航路通航船舶ニ對スル課金問題ニ關スル「カラハン」ノ「ノート」原文寫及譯文今般在支太田代理公使ヨリ送附有之候ニ付右寫茲ニ及御送附候也

別紙「カラハン」覺書譯文及寫原文共添付ノ事

追付ノ事

3-2214
0279
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

門 9
類 6
項 6
號

電信課長

電信案

暗號 平文

發電 大正十三年八月十八日 午前 九時三〇分

送電番號 一六六三八

奉天經由 長春經由

主管 歐米局長

主任 歐米局第一課

（起草大正十三年八月十八日）

受信人名 芳沢公使 在支

發信人名 幣原大臣

大正十三年九月貳日 記録係接受

件名 宗谷海峡航路標識引渡ニ関スル件

綴込名 燈台燈船浮標

第九三五號

往電第五〇一號ニ関シ

本月十六日樺太水道航路標識露支側ニ引渡終了セル旨出先当憲ヨリ海軍省ニ電報アリタリ

電信案 外務省

歐米局長

秘

三、一七

歐第一課

大正十三年八月十六日 海軍省軍務局中佐 持参

后五、一〇 亜港發
前五、二〇 着

海軍大臣

臨時海軍防備隊司令

臨防機密第三十八番電

昨十六日樺太水道航路浮標ヲ露國側ニ引渡方終了ス

機密
受第イ/77號
13.8.20

主管 政務局 第一課

機密第三八一號

大正十三年八月十四日

在支那
特命全權公使 芳澤謙

綴込名

大正十三年九月四日 記錄係接受

外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

黒龍江灣附近ニ於ケル航路標識引渡方ニ關スル件

本件ニ關シ八月九日ノ會見ニ際シ「カラハン」ヨリ本使ニ對シ本件兩國海軍官憲間ニ於テ未解決ノ儀ナルニ付此際特ニ本使ヨリ日本政府ノ考慮ヲ煩ハサレ度旨申出ノ次第アリ右ニ對シ本使ハ本件ニ留守中ノ出來事ニモアリ篤ト調査ノ上回答スヘキ旨可然答ニ置キタル處同日右會見終了歸館後貴電第五〇一號ヲ接到シタルニ付右ノ趣不取敢島田領事ヲシテ勞農側「クルイシコ」參事官ニ傳ヘ同參事官ヨリ「カラハン」ヘ傳達方取計置キ更ニ八月十二日島田領事他用ヲ以テ「カラハン」ト會見ノ折篤ト貴電御來示ノ趣旨ヲ「カラハン」ニ傳ヘシメタル處「カ」ハ我方ノ好意ニ對シ深ク感謝ノ意ヲ表シ居タル處ニ有之候間右樣御了承相成度右此段報告申進候也

(已號用紙)
在北京日本公使館
(已號用紙)
在北京日本公使館

3-2214

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附属書類添附

普通
受第232號
139.11

歐米局 第一課

第九九號

間宮海峡航路標識撤収ニ関スル件照會

大正拾參年九月廿日 陸軍次官 津野一輔 [印]

外務次官 松平恒雄殿

首題ノ件ニ関シ別紙寫ノ通薩哈嗹州派遣軍ヨリ申越有之候條可然露國側ニ交渉方取計相成様致度及照會候也

大正十三年拾月拾四日 記録係接受

陸軍

電報譯 九月四日午后二時十分發 七時四八分着

發信者 薩哈嗹州派遣軍参謀長

陸軍次官宛

薩参三七〇、間宮海峡航路標識ハ先般露國ニ引渡セシ結果其撤収時期明確ナラズ、一般艦船特ニ漁業船ノ運航上例年ノ如ク十月五日以后撤収ニ着手スル様取計ラハレタシ

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信案

昭號 1

發電 大正 年 月 日 午前/午後 時 分

主管 歐米局長 （花押）

主任 歐米局第一課 （起草）大正十三年九月十二日

受信人名 在支 芳沢公使

發信人名 幣原大臣

大正十三年拾月拾四日 記錄係接受

送電番號

件名 間宮海峡航路標識撤収期ニ関シ「カラハン」ニ申入ノ件

第五六四號

海軍省ヨリ露国側ニ引渡シタル間宮海峡航路標識ハ一般艦船特ニ漁業船ノ運航ニ（多大ノ便宜ヲ与フルモノナルニヨリ）例年ノ如ク十月五日以前ニ撤収ニ着手スル様露国側ニ交渉アリタキ旨申出タルニ付右「カラハン」ニ申入レ結果回電アリタシ

外務省

（丙號用紙）

奉天經由 長春經由

門 3
類 6
項 6
號

要再回

文書課長

公信案

大正十三年八月廿貳日接受

大正十三年八月廿參日發送濟

文書課發送

主管 歐米局長

主任 歐米局第一課

起草 大正十三年八月廿日

欧一 機密第八六號

大正十三年八月二二日附

受信人名 安保海軍次官

發信人名 松平次官

件名 間宮海峡航路標識引揚方ニ関スル件

綴込名 各國燈台燈船浮標雑纂

大正十三年九月一日記録課接受

附屬 別紙

（甲號用紙）

本件ニ関シ今般在支芳沢公使ヨリ別紙写ノ通リ報告有之ニ付右茲ニ及御送附候也

追而同報告ニ引用セラレタル電報第五〇一號ハ本月十一日貴省軍務局塩沢第一課長宛ニ送附致置候

別紙 在支芳沢公使来信大正十三年八月十四日附機密第三八一号

写一部添附ノ事

外務省

（乙號用紙）

門	3
類	6
項	6
號	

大臣 次官 電信課長 亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人事 會計 文書 平和條約 對支文化

件名 黒龍江航路標識等ノ件

綴込名 松花江航路標識関係 第一

大正十三年十二月六日 記録係接受

北京発 大正十三年十二月 十四日後一〇・三〇

本省着 十六日前三・〇〇

幣原外務大臣 芳沢公使

第一〇一〇號

貴電第三四四號ニ関シ奉天農商部ニ照会シタル處黒龍江航路標識ハ十二月一日迄之ヲ存置スルコトニ決セル旨本月十四日付ヲ以テ回答アリタリ右海軍省ヘ御通知ヲ請フ

0285
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

要再回

類
項
號

公信案

大正十三年拾月拾八日接受

文書課長

文書課長検印

文書課發送 大正十三年拾月拾八日

主管 歐米局長

主任 歐米局第一課

起草 大正十年十月十八日

浄書

校正(原稿)

(浄書)

機密第八六號

大正13年10月18日附

附属書 通

受信人名 津野陸軍次官

發信人名 松平次官

大正十三年拾月廿参日 記録係接受

作名 間宮海峡航路標識撤収問ニ関シ「カラハン」ニ申入レ件

縫込名 間宮海峡航路標識

本件ニ関シ去九月十一日附亜発第一九九號貴信ヲ以テ御申越ノ趣ハ當時「カラハン」ニ申入レ方在支芳澤公使ニ訓令相成居候處今般全公使ヨリ労農政府ニ於テハ黒龍海湾航路標識ハ十一月一日迄之ヲ存置スルコトニ決セル旨十月十六日「カラハン」ヨリ回答アリシ旨電報有之候條右茲ニ及通報候也

外務省

(甲號用紙)

(乙號用紙)

外務省

3-2214

0286

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

陸軍へ
海〃

五

[illegible]

海

[illegible]

3-2214

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

門 3 類 6 項 6 號

公信案

文書課長 文書課長検印

文書課發送 大正十三年拾月廿日 發送濟

大正十三年拾月廿日 接受 41

主管 歐米局長

主任 歐米局第一課

起草 大正十三年十月二〇日

浄書 みつ子

校正（原稿）（浄書）

機密 普通 第一〇四號

大正13年10月20日附

附屬書

受信人名 安保海軍次官

發信人名 松平次官

大正十三年拾月廿参日 記録係接受

件名 南宮海峡航路標識撤収期ニ関スル件

縫込名 燈台燈船浮標関係

本件ニ関シ曩ニ陸軍省ヨリ（日露戦役ニ際シ）南宮海峡航路標識ハ露国ニ引渡セル結果其撤収期明確ナラス一般船舶特ニ漁業船ノ運航上例年ノ如ク十月五日以后撤収ニ着手スル様露国側ニ交渉方照会有之依テ其趣旨ヲ「カラハン」ニ申入レ方当時在支芳沢公使ニ訓令相成居候処今般全公使ヨリ労農政府ニ於テハ黒龍海湾航路標識ハ十一月一日迄之ヲ存置スルコトニ決セル旨十月十六日「カラハン」ヨリ回答アリシ旨電報有之候条何御参考迄茲及通報候也

外務省

（甲號用紙）（乙號用紙）

3-2214

0288

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣
次官
亞細亞
歐米
通商
條約
情報
人事
會計
文書
平和條約
對支文化

件名　間宮海峡航路標識撤收ノ件
綴込名　燈臺燈船及標識關係

大正十三年十一月五日

亜港發　大正十三年十一月四日後四、五〇
本省着　〃　五日前四、一〇

暗一

一〇五二〇　平

第一六號

幣原外務大臣　　鈴木通訳官

本月四日浦潮ヨリ「デ」港経由亜港ニ入港セル露國義勇艦「インジギルカ」號ニテ来亜セル黒龍(アムール)水道水先案内「ジブノフ」ノ言ニ依ルニ間宮海峡ノ航路標識ハ十月三十一日迄ニ露國官憲ニテ全部撤收リ完了セリト

3-2214
0289
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

門 3
類 6
項 6
號

電信案

暗號 平 発電 大正十三年十一月五日午後三時五十分
送電番號 八三一八

主管 歐米局長
主任 歐米局第一課
（起草大正十三年十一月五日）

受信人名 在支 芳沢公使
發信人名 幣原大臣

件名 間宮海峡航路標識ニ関スル件

大正十三年拾壹月廿貳日記録係接受

奉天經由
長春經由

第三九三號

貴電第一〇二〇號ニ関シ
在亜港鈴木通訳官ヨリ本月中露国義勇艦船ニテ同地ニ到レル黒龍水道水先案内ノ言ニ依レハ間宮海峡ノ航路標識ハ十月三十一日迄ニ露国官憲ニテ全部撤收セル趣電報アリタリ

外務省

（丙號用紙）
（乙號用紙）

3-2214
0290
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五

一四五二〇　平

亜港發　大正十三年十一月四日後四、五〇
本省着　〃　五日前四、二〇

幣原外務大臣　　鈴木通訳官

第一六號

本月四日浦潮ヨリ「デ」港経由亜港ニ入港セル露國義勇艦「インジギルカ」號ニテ来亜セル黒龍(アムール)水道水先案内「ジプノフ」ノ言ニ依ルニ間宮海峡ノ航路標識ハ十月三十一日迄ニ露國官憲ニテ全部撤收ヲ完了セリト

大正十三年十一月廿貳日記録係接受

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp